

# 平成31年度 事業報告書

ハーバー大慈

## 1. <施設理念>

児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、利用者の人権を尊重し、地域から信頼される施設を目指す

## 2. <基本方針>

- ①利用者の利益を最善の目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する
- ②母と子の権利擁護のために、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する

## 3. <目標>

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする

担当職員だけではなく全職員が協力し、チームとして支援が行える様、会議等を通し、職員間の意思疎通を図った。結果、職員による支援（対応）の差が少なくなり、一貫性を持った支援が少しずつ行える様になってきたので、引き続き継続していきたい。

- ②職員の資質の向上

各職員の経験年数が長い事もあり、柔軟な価値観や発想が持てる様、内部・外部研修だけではなく会議やミーティングを通し、意識の向上に努めた。今までと違った支援方法を取り入れる等、入所者の支援に繋ぐ事が出来た。

- ③地域のニーズに沿ったサービス、子育て支援を行う

リフレッシュ保育事業を通し、法人内子ども園と連携し、日、祝日に見守りが必要な世帯の受け入れや子育て支援（相談等）を行った。来年度も地域のニーズを把握し、サービスを提供していきたい。

### <リフレッシュ保育事業>

平成31年度年間延べ223人（昨年度年間延べ392人）→前年度より169名減少した。要因としては、新任職員の配置や職員の休職（産休）により受け入れ人数を制限した事、新型コロナウイルス感染症対策で受け入れを止めた事が挙げられる。

### ※月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H31	34	34	27	5	7	15	14	18	24	19	25	1
H30	33	33	24	43	32	24	32	30	62	23	20	36

## 4. <健康診断>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

## 5. <広報>

毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。

6. 《入居者の異動利用状況》

月別 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
初日在籍数		18	19	19	19	18	18	17	17	17	18	18	20	218
		41	43	43	43	41	41	39	39	39	41	41	46	497
入所	夫の酒乱 暴行													
	住宅 喪失	1											1	2
		2											2	4
	その他									1		1		2
										2		3		5
退所	公営住宅 入居													
	民間住宅 入居				1									1
					2									2
	復縁 再婚													
	その他						1							1
						2							2	
短期 保護	母子	2				1			1	1		1		6
		7				4			2	2		2		17
	婦人	1	1			1		1	1	1	1	1		8

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、5世帯15名 婦人は6名だった。

7. 《保健衛生》

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各居室、短期保護室、事務所、集会室、宿直室、倉庫の害虫駆除を行った。</li> <li>・業者に依頼し、各居室のエアコン清掃を行った。 (廊下清掃、居室の排水管清掃は新型コロナウイルス感染症対策の為、来年度に延期する)</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策として、3月より下記の対応をする             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 入所者の体調不良者の把握(検温)。体調不良が続く場合は、相談窓口への対応</li> <li>② 外部の方(親族等)の出入りの制限</li> <li>③ 外部業者が出入りする際の検温</li> <li>④ 集団にならない様、預かり保育の制限</li> <li>⑤ 職員の体調管理(検温)</li> <li>⑥ 定時の換気</li> </ul> </li> </ul>
--

8. 《避難訓練》

- ① 消防訓練→毎月1回行う。また、水消火器を用意し消火器使用の訓練も取り入れた。  
(3月、新型コロナウイルス感染症対策の為、実施せず)
- ② 不審者訓練→10月、施設への不審者侵入を想定し、訓練を行った。
- ③ 地震訓練→11月、地震後の津波を想定し、大倉山公園まで避難の練習をした。

9. ≪会議≫

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	ワンアッパ会議
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設・子ども福祉係・生活保護係・保健師の各担当者）		

※8月→学童保育との兼ね合い、3月→新型コロナウイルス感染症対策の為、月1回の各会議と委員会は行わず。

10.《行事内容》

○年間行事（月極・・・母の会・避難訓練）→3月、新型コロナウイルス感染症対策の為、行わず

月	日	行事	月	日	行事
4	5	個別対応遊び（クレープ作り）	10	5	昼食会
	8	昼食会		6	OB会
	10	昼食会		19	昼食会
				26	個別対応遊び（ハロウィンパーティー）
			27	親子エンジョイ （レゴランド・天王寺動物園） スケート招待→親子エンジョイと日程が重なった為、不参加	
5	11	昼食会	11	9	昼食会
	12	母子協 母と子の運動会（湊小学校）			個別対応遊び（おやつ作り）
	18	昼食会		16	施設内忘年会
	25	個別対応遊び（昼食・お菓子作り）		23	児童エンジョイ（ニジゲンノモリ） →小学3年生～中学生
			30	昼食会	
6	8	昼食会 個別対応遊び（夕食・お菓子作り）	12	7	昼食会
	11	害虫駆除		14	個別対応遊び（豚まん作り）
	21～	高校生エンジョイ		21	施設内クリスマス会
	23	（東京ディズニーシー）		27	昼食会
	29	昼食会 卓球大会			
7	8	七夕（鮭寿司・豚汁）	1	7	個別対応遊び（もちつき）
	19	昼食会		13	母子協 新春母と子の集い
	20	個別対応遊び（夕食作り）		18	昼食会
	30	昼食会		25	新年会
	31～ 8/2	母子協 児童キャンプ（香住）			
8	7	昼食会	2	3	節分（巻き寿司・豚汁） 個別対応遊び（巻き寿司作り）
	21	料理教室		8	昼食会
	23	地藏盆		11	児童エンジョイ（キッザニア） →年長～小学2年生
	25	個別対応遊び（尼崎スポーツの森・ウォーターパークアマラゴ）		15	昼食会
	27	昼食会		28～	母子協 児童スキーキャンプ（ハチ高原） →新型コロナウイルス感染症対策の為、中止
	28	昼食会		3/1	
	29	昼食会			
9	2	昼食会	3	3	ひな祭り（鮭寿司・豚汁） 個別対応遊び（お弁当作り・ピクニック）
	8	母子協 バス旅行 （東条湖おもちゃ王国）		23	昼食会
	14	焼肉パーティー		25	昼食会
	21	昼食会			※3月の行事は新型コロナウイルス感染症対策の 為、全て中止とする
	28	個別対応遊び（昼食作り・卓球）			

### 1 1. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した）
	夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題 終了している場合は他の科目の宿題
中学生	週1回	学校、塾のワークを一緒に行った
	テスト前は2日間連続	テスト範囲
	夏・冬の長期休みは、 毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題 終了している場合は、他の科目の宿題
	週1～2回（2時間）	教科全般 希望者のみ、大学等の学生に家庭教師として来てもらい、1対1で学習指導をしてもらった
高校生	週1～2回（2時間）	教科全般 希望者のみ、大学等の学生に家庭教師として来てもらい、1対1で学習指導をしてもらった

※3月は新型コロナウイルス感染症対策の為、各学習指導を実施せず

### 1 2. 《施設整備等》

※設備の老朽化、退所後のリフォーム、災害（豪雨）に伴い、施設環境整備を行う

項目		
居室修繕工事	水道管取替工事	居室、集会室漏水工事

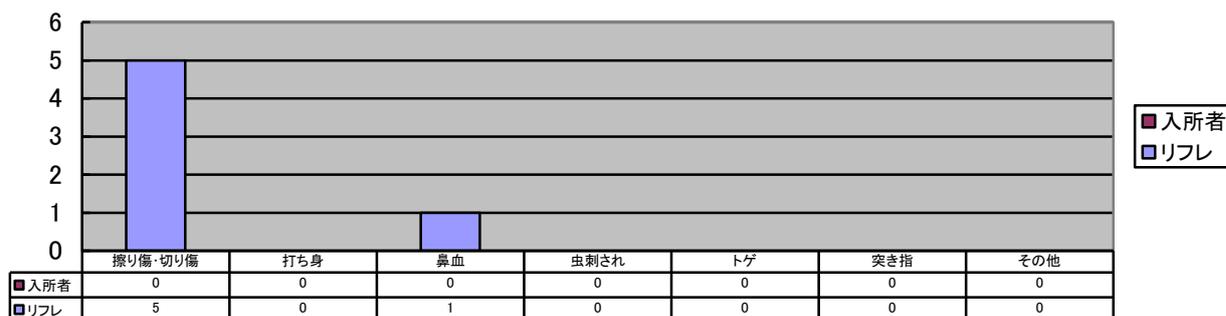
### 1 3. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

報告件数	平成31年度			平成30年度			
	合計	事故	ケガ	報告件数	合計	事故	ケガ
入所者	0件	0件	0件	入所者	13件	0件	13件
リフレ	6件	0件	6件	リフレ	28件	1件	27件

事故・ケガ報告(内容)



○まとめ

事故→リフレッシュ保育事業の利用人数が減少したことに伴い病院を受診するケガは発生しなかった。定期的に初期対応を含めた適切な処置については職員間で共有出来る様、話し合った。  
ケガ報告→ケガの内容は外遊び中の擦り傷が4件、室内遊び中のケガが2件だった。7月よりリフレッシュ保育事業の受け入れ制限を設けた為、件数自体が減っている。入所者に関してはケガの処置を行う事がなかった。

14. ≪苦情・相談結果報告≫ 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

○報告件数

平成31年度				平成30年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		1件	1件	0件

○まとめ

今年度、苦情は1件あった。地域の方からで、21:00頃、事務所窓口で職員と入所者が話していた事に対し、声が響くので気を付けてほしい、という内容だった。その後は話す時間帯や声の大きさ等に配慮し、同じ苦情は出ていないが、初期対応については特に丁寧な対応を心掛けていきたい。

15. ≪地域貢献≫

- ①法人内認定こども園の時間外保育受け入れ（20時以降）
- ②リフレッシュ保育事業の保育時間延長（21時以降）
- ③アフターケアによる居室訪問、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等

今年度、法人内こども園の時間外保育受け入れは利用がなかった。  
アフターケアは関係機関との調整、金銭管理、病院への付き添いを行った。また、退所者の高齢化も進み、施設入所等、新たな相談もあった。退所後も安心して地域で生活してもらえ様、引き続き地域貢献として、アフターケアを行っていきたい。

16. ≪総括≫

休職等で職員数が減少し、各職員の業務量は増えたが、職員それぞれの継続年数が長い事もあり、乗り越える為の業務の改善や自発的に課題に取り組む姿などが見られた。また、職員にとって成長する機会ともなり、任せられた業務に対し、より責任を持ち行う姿が見られるなど、チームとしてのレベルアップにも繋がった。引き続き、職員の資質の向上には努め、来年度は入所者・入職希望者の減少という課題にも対策を考え、行動していきたい。